

ただいま子育て奮闘中 伊勢美雪さん(中)



伊勢さんは、年中さん5歳児のママ。幼稚園入園前には一人っ子なので子どもとの距離の取り方などに悩むこともあり、近くに住んでいるおばあちゃんに助けられたり、子育て支援を利用することが多かったといいます。

●子育て支援を利用しての感想は？
友人のママさんたちの中には、県外から来ている人や、ご主人が単身赴任や長期出張の人もいて、なかなか友達もできず、子育てに不安を抱えた人も……。そんな時、子どもを遊ばせながら、具体的な子育てのアドバイスを受けたり、バスで行く行事に参加し、親子共々リフレッシュできたりなど、支援を利用することで助けられた方も多くいたようです。

●入園して年中になった今、子育てをしていて感じることは？
園の親子のグループで遊ぶことが多く、楽しく安全ではあるので

すが、自分の子どもは大きい子から小さい子まで集団で遊び、上の子が下の子の面倒をみたり、叱ったり、自然に子どもどうしのルールや付き合い方が学べました。今は、ケンカになると親が止めたり、親が押しつけたり、子どもたちで決する場面が少ないように思います。子どもだけで遊ばせられない時代なので仕方がないのかもしれない。でも、かもしれませんが……

●ご自分のお子さんとはどんなふうにかかわっていますか？
今は車でどこでも行ける便利さがあり、子どもも歩く機会が少なくなっています。うちの子は電車に乗るのが好きなので、そんな時は駅まで頑張って歩きます。電車に乗るときで駅名や県名を覚え、目的があると我慢できたり、興味が広がっていつたりするので、ひとつでも好きなことを見つけてあげられるといいと思います。

●今の時代は何をするにしても便利になりました。親も子どももつとぶかつたり、考えたりしながら、楽しく子育てが話してくれました。



矢板の元気印



今年「丑年」、というわけで矢板高校の元気な牛を、紹介します。よく見るとみんな個性豊かな面構え。鼻筋がすつと通ったりりしい顔の男前・くせ毛のあいきようモノ。それぞれ愛称が付けられかわいがられています。



◆県立矢板高校では広大な敷地に牛舎や放牧場が整備され、その恵まれた環境の中で、農業経営科の生徒が実際に牛を繁殖・肥育し学んでいます。

◆牛舎には生まれて間もない子牛から出荷直前の立派な牛まで、合わせて常時三十頭から四十頭の牛が飼われていて、実習担当の先生方の指導のもと、繁殖から出荷までの一連の仕事を各学年が協力し合いながら学んでいます。牛舎の掃除や餌作りは特に大事な実習です。飼料が入った袋は一つ二十キもあり、それを運搬するのは女生徒にとっては重労働です。繁殖用の牛と肥育の牛は別メニューなので、餌作りも慎重にしなければなりません。学ぶことは山ほどあります。

◆肥育牛は三十カ月ほど飼育してから出荷されます。ちょうど入学して卒業するのと同じくらいの期間なので、生徒たちは同じ牛と長く関わることになり、愛着もわくようです。しかし、ただかわいがりだけではなく、指導に当たる先生方は、「牛を単なる教材としてではなく、生産物として捉え、出荷し評価された時の達成感を生徒に感じてもらいたい」と、農業経営の基本姿勢を大事にされています。

◆「矢板高校は現在、とちぎ和牛の指定農場に選ばれ、毎年品質の良い牛を出荷しています。高校としてはかなり高いレベルです」と、指導の先生が誇らしそうに話してくださいました。



愛称「りんちゃん」は、二年連続でA5ランクに評価された牛を生んだお母さん。人間にも良く慣れており、やさしい目をした優秀なお母さんです。通常より長く繁殖をされており、卒業生も懐かしくて会いに来るほどの人気者。



編集後記 あけましておめでとうございます。今日は七草、そして、最終原稿の締め切り日。おせちを食べ過ぎて、少し重くなった体と頭にむち打って仕上げています。いろいろ厳しい年、かわら版でホッとできる話を提供するために動き回って、早くやせなきゃ！

市制50周年記念イベントとして行われた「私のりんご料理コンテスト」。せっかくの皆さんの苦心作、「お披露目しなければもったいない！」ということで、毎号ひとつずつご紹介させていただきます。

☆料理の部 最優秀賞 りんごと舞茸の肉まきフライ



【材料(4人分)】
りんご1個、舞茸1パック、豚ロース薄切り12枚、キャベツの千切

り適量、ブロッコリー2個、ミニトマト2個、小麦粉適量、パン粉適量、卵1個、水少々、サラダ油適量

【作り方】
①、りんご、舞茸を12等分し、肉で巻く
②、小麦粉、卵(水を入れる)、パン粉の順につける
③、②を油で揚げる
④、③を皿に盛り、キャベツの千切り、ブロッコリー、ミニトマトをのせ出来上がり